

WBF 千里シリーズ
2011**王者再臨！****松本誠司、挑戦者藤原を3タテで
12年ぶりV奪還！**

記：しらきけ んたろう

◆序章◆

平成へ改号した年よりその歴史を積み重ねてきた WBF 千里シリーズ。2011 年シーズンを締めくくる戦いが、今年も WBF 原点回帰の聖地“ボウル曽根”(豊中市)にて 10 月 29 日に開催された。

3 月から 7 ヶ月に及んだレギュラーステージ(以下レギュラーS)を征したのは、WBF 随一の実力を誇りながらここ数年低迷に苦しんだ不沈艦・松本誠司選手。久々にその安定した力を見せつけ、1 着 1 回、2 着 3 回、3 着 2 回と出場全試合で上位入賞を果たし、優勝ポイント 57 で堂々の 1 位。今期はストライク率との 2 冠達成とまさに貫録の優勝と言えるだろう。

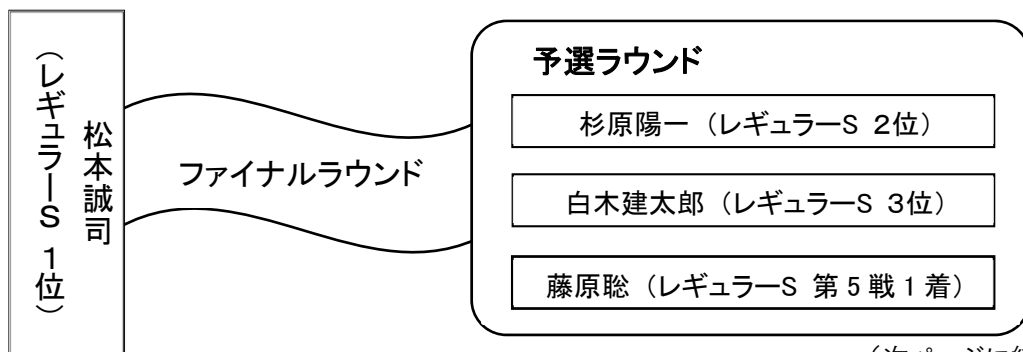
その松本選手との決勝ラウンド挑戦権を賭け、予選ラウンドを戦う 3 名の選手を紹介しよう。

まずは惜しくもレギュラーS 2 位に止まった実力者・杉原陽一選手。ここ最近はやボールを封印するも、ハウスボールをかの如く自由自在に操り高得点を叩き出す実力は今年も健在。アベレージ・スペア率でこちらも 2 冠と、予選突破の本命選手と言えるだろう。

続いて、東京在住ながらステージ優勝 2 回でレギュラーS 3 位に入った白木建太郎選手。前年シリーズはワイルドカード枠から優勝するなど、ここ一番に勝負強さを見せる。

そして、第5戦優勝で千里シリーズ予選ラウンドへの切符を手にした、遅咲きの太輪・藤原聡選手。ボールを右へ左へ曲げ分けるマジック投球が近年安定感を増し、赤丸急上昇中だ。

この 3 名にて、2 ゲーム・ハイスコア(ハンデあり)の予選ラウンドが行われた。果たして結果は……。



(次ページに続く)

◆予選ラウンド◆

苦節17年！ 藤原選手が念願のファイナル進出！

第1ゲーム。

下馬評どおり、杉原選手が1フレからトップギアで猛発進。ダブルスタートの後も着実にマークを重ね、5 ストライク／4 スペアの 190 点(素点 191)で一気に優位に立つ。ライバルのスタートダッシュに気後れしたのか、昨年の千里シリーズ決勝で杉原選手を下した白木選手は、大事なところでミスを連発。161 点(素点 155)と伸び悩んだ。

逆に落ち着いたゲーム運びを見せたのが藤原選手。レーンの状態を確かめるようにスローカーブを駆使し得点を重ね、ハンデも活かして 189 点(素点 152 点)と杉原選手に肉薄。ジワリとプレッシャーをかけた。

続く第2ゲーム。

前ゲームの 190 点を目標に各人スコアメイクにかかるが、前年覇者の白木選手のペースは一向に上がらない。要所で痛恨のスプリットに泣かされ、決勝ラウンドに備えた力を温存したまま脱落した。それに油断したわけではないだろうが、杉原選手も前ゲームで見せたストライクラッシュが鳴りを潜めてしまい、自身のスコアを更新するにはいたらなかった。

果たして、最後に差きったのが藤原選手だった。中盤までためていた足を 7 フレで爆発させると、10 フレ第一投で試合を決定付けるストライクを見事に決め、2 ストライク／5 スペアの 196 点(素点 159 点)を達成。松本誠司選手との決勝ラウンド挑戦権を獲得した。

昨年の千里シリーズ決勝を戦った実力者、杉原・白木両選手を抑え、苦節 17 年で初の千里シリーズ出場を果たした藤原選手。決勝ラウンドも波乱の展開となるのか…。

	選手名	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F	得点											
第1 ゲーム	白木建太郎	9	-	9	/	7	2	*		9	/	9	-	9	/	9	/	9	/	8	/	6	155 >> 161
	藤原 聡	*		7	/	8	-	6	1	*		7	/	9	-	8	/	8	/	6	/	7	152 >> 189
	杉原陽一	*		*		9	/	8	/	*		9	/	*		9	-	*		8	/	6	191 >> 190
第2 ゲーム	白木建太郎	*		⑦	2	8	/	8	/	⑧	1	9	/	7	/	8	/	8	/	⑧	-		152 >> 158
	藤原 聡	7	1	9	-	9	/	*		8	/	8	1	8	/	8	/	8	/	*	9	-	159 >> 196
	杉原陽一	⑧	/	9	/	9	/	9	/	9	/	7	/	9	/	8	-	9	/	9	/	*	177 >> 176

★藤原選手がファイナル進出

(次ページに続く)

◆ファイナルラウンド第1戦◆

藤原選手にシリーズの洗礼！松本選手、危なげなく一勝

予選ラウンドを尻上がりの調子で勝ち上がった挑戦者・藤原選手を、横綱・松本誠司選手がどう受けてたつか。注目の第1ゲーム。

当初、ハンデ差 35 点のプレッシャーが松本選手を精神的に追い詰めるのではと思われたが、本人は逆に開き直ったのか、自身のボウリングに集中。5 フレでの 5・7 ピンのスプリットを見事にカバーすると表情にも自信が戻り、3 ストライク 6 スペアの 177 点(素点 175 点)をメイク。一方の挑戦者は、予選ラウンドとは別人のボウリングを展開。マークも 2 スペアのみと、結果 139 点(素点 102 点)に止まり、一方的な展開で第一ゲームが終了した。

												
松本 誠司 (シーズン優勝)	X	9 /	9 /	9 /	8 /	6 3	9 /	7 1	9 /	X X 9	2	
	20	39	58	76	92	101	118	126	146	175	177	
ハンデ込み 得点差→	↓23	↓20	↓10	↓9	↓2	↓2	↑17	↑16	↑17	↑38	1勝	HDCP 競技点
藤原 聡 (第5戦1着)	8 -	7 /	6 3	9 /	7 2	9 -	8 -	7 2	9 -	8 -		37
	8	24	33	50	59	68	76	85	94	102	139	
												

◆ファイナルラウンド第2戦◆

悪夢再現?! 藤原選手ガス欠で大ピンチ

それは1年前、2010年の千里シリーズ。気合十分で臨んだ藤原選手は、試合前恒例の個人練習を実施。素点 200up を叩き出し一気に予選通過本命と目されたが、本番ではグダグダの展開で結果敗退に終わった・・・。

そして今年。個人練習を吉例とせず予選ラウンドに突入すると好スコアをマーク。悲願の決勝へ勝ち上がる。しかし肝心の初戦で凡ゲームを展開。「藤原選手は長期戦に弱いのでは」との分析が解説席から囁かれ始めた。

それに発奮したのか、ボールがセンターに徐々に集まりだした藤原選手。調子を取り戻したかに見えたが、肝心のピンがなかなか倒れてくれない。171点(素点134点)と第一ゲームのスコアは上回ったものの、松本選手の勢いを封じるまでには及ばなかった。

スタートこそスプリットだったものの、その後は小憎らしいまでの堅実なボウリングを披露する松本選手。4 ストライク / 4 スペアの 183 点(素点 181 点)で、チャンピオンの座に一気に王手をかけた。

(次ページに続く)

												
松本 誠司 (シーズン優勝)	7 1 8	X 37	X 56	9- 65	X 85	8/ 105	X 125	9/ 144	9/ 162	8/9 181	2 183	
ハンデ込み 得点差→	↓44	↓24	↓24	↓24	↓13	↓10	↑1	↑1	↑10	↑12 2勝	HDCP 競技点	
藤原 聡 (第5戦1着)	9/ 17	7 2 26	X 45	8 1 54	9- 63	9/ 80	7 2 89	9/ 108	9- 117	X 7- 134	37 171	
												

◆ファイナルラウンド第3戦◆

松本選手、圧巻の3連勝で悲願の21世紀初制覇！

勝負の第3ゲーム。体力勝負になる長期戦に弱いのは、不沈艦・松本選手も同じ。ここで1勝を挙げることができれば、藤原選手にも分がある。

王座まであと一勝の松本選手は、ハンデ差を埋めるため着実にスコアメイク。ベビースプリットを難なくカバーするとダブル、ストライク、スペアと一気に詰め寄った。

何とか一矢報いたい藤原選手も、意地のストライク発進。その後スプリットに苦しむも5フレ、6フレをスペアで凌ぐ。勝つためには松本選手にプレッシャーをかけ続けるしかないのだ。

そしてチャンスが訪れた。松本選手が7フレでまたもやスプリット。縮まった差を引き離すチャンスだ…ったのだが、今度は藤原選手が8フレで平行ピンのスプリット。これに緊張の糸が切れたのか(解説席からは、松本選手得意の「捨てゲーム」宣言で戦意をそがれたとのコメントも聞かれたが)、その後思うようにスコアを伸ばせず165点(素点128点)でフィニッシュ。

一方の松本選手は、逆にスプリットで肩の力が抜けたのか軌道修正。スコアを180点(素点178点)に伸ばし、3連勝で勝負を決めた。

													
松本 誠司 (シーズン優勝)	8 / 20	X 48	X 67	8 1 76	X 96	9 / 113	7 2 122	8 / 141	9 - 150	X X 8 178	2 180		
ハンデ込み 得点差→	↓34	↓15	↓10	↓18	↓7	↓9	↓17	↓7	↓4	↑15 3勝	HDCP 競技点		
藤原 聡 (第5戦1着)	X 19	7 2 28	9 / 42	4 / 59	7 2 68	8 / 87	9 / 104	7 2 113	4 2 119	3 6 128	37 165		
													

(次ページに続く)

激闘を終えて…

松本 3(000)0 藤原

実に12シーズンぶりの
王座奪還を果たした
松本誠司選手

この10年余り旧世紀の人物
と言われてきたが、第2の
黄金期を築くつもりだ。
しかし藤原君のゆっくりだ
が着実な成長ぶりには感心
させられる。今後が楽しみ
だよ。ハッハッハ・・・
ってオイ娘たち！ちゃんと
父の活躍見てたのか！



悲願のファイナル出場も
力及ばず敗退した
藤原聡選手

調子は決して悪くなかった。
やはり巨匠の壁は高かったで
すね。完敗です。
でもこの経験をバネにまだま
だ成長できる気がします。こ
のオフは精神修養と体力増強
に取り組みます。
応援してくれたみんな！来年
また戻ってくるよ。約束だ！

千里シリーズ過去の戦績

	1989	松本誠司	4(000●0)	1	松本昌士
	1990	奥山満夫	4(●●●0000)	3	下永義久
	1991	松本誠司	4(00●00)	1	島裕二
※1	1992	松本誠司	4(0000)	0	島裕二
	1993	松本誠司	4(0000)	0	田中寿美子
	1994	松本誠司	4(●0●000)	2	島和男
	1995	白木建太郎	4(●0000)	1	田中久
	1996	野村正明	4(00●●△0●0)	3	松本誠司
	1997	杉原陽一	4(0000)	0	松本香代
	1998	松本誠司	4(0●●●00)	2	白木建太郎
	1999	松本誠司	4(0000)	0	杉原陽一
	2000	白木建太郎	4(0000)	0	岩田修一
	2001	杉原陽一	4(0●●●●00)	3	ロバート・K
	2002	白木建太郎	4(●●000●0)	3	松本誠司
※2	2003	松本昌士	3(0●00)	1	◆松本誠司
	2004	◆白木建太郎	3(0●●0△0)	2	松本昌士
	2005	松本昌士	3(000)	0	◆白木建太郎
	2006	岩田修一	3(●●000)	2	◆松本誠司
	2007	◆杉原陽一	3(0●●●0)	2	奥山満夫
	2008	奥山満夫	3(0●00)	1	◆島和男.com
	2009	◆杉原陽一	3(●000)	1	奥山満夫
	2010	白木建太郎	3(00●0)	1	◆杉原陽一
	2011	◆松本誠司	3(000)	0	藤原聡

※1 島裕二が前後期制覇をしているため、総合優勝は島裕二と記録。
特別企画の「千里G1クライマックス」として開催。

※2 2003年以降、千里シリーズの実施方式が変更。3勝先取で優勝。
◆はレギュラーシーズン優勝